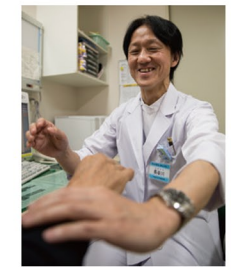
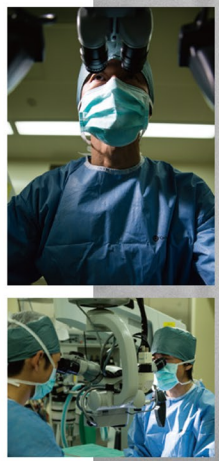


# 医療 >>> vol.39 最前線

## 整形外科

長谷川教授は手の機能を熟知する手外科専門医、細微な手技を持つ整形外科専門医、美容的要素に精通する形成外科専門医の資格を持ち手術にあたったいる。この3つの専門医資格を持つ医師は全国的に少ない。



幼い頃からものづくりが好きでプラモデルに熱中していたという長谷川教授。「夢中になる性格のためか、長時間の手術もしんどいと思ったことはありません。ほかの先生に「大変ですね」と言われますが私は集中しているせいか平気なんです」と微笑む。時々、家族と共にする外食が息抜きとのこと。

**長谷川 健二郎 教授**  
Kenjiro Hasegawa  
■認定医・専門医・指導医  
日本整形外科学会認定整形外科専門医・認定スポーツ医・認定リウマチ医・認定脊椎脊髄病医、日本手外科学会手外科専門医、日本形成外科学会認定形成外科専門医  
■専門分野  
手外科、四肢先天異常、四肢再建、マイクロサージャリー、リンパ浮腫



# Report! 外科医として 決して諦めない心

by 川崎医科大学附属病院

マイクロサージャリーを用いた指、手足の再接着術、再建術。

マイクロサージャリーを「こ存じだろうか。簡単に説明すると「顕微鏡を用いて約10倍から30倍に拡大して行なう手術」。長谷川健二郎教授は、この極めて高度な手技と知識が要求されるマイクロサージャリーを駆使して、年間約60例もの高難度な手術を手がける第一人者。この分野の先進国であるシンガポール国立大学病院などでキャリアを重ね、現在は指や手足の再接着術、小児の先天異常、悪性腫瘍切除後の再建術など、専門医として当科の最前線を担っている。

「現在、当科は再接着術では県下の中心的存在。マイクロサージャリーの研究、手術ではわが国をリードしていると自負しています」。

新しい手術法の研究に余念がない長谷川教授。ウルトラマイクロサージャリーと呼ばれる外径〇三・〇・五ミリ以下の超微小血管吻合では、独自の手法を考案、リンパ管静脈吻合術などに応用し、学会で論文発表も行なっている。

「外科医として一番大事なのは『諦めない心』。粘り強く冷静に状況に向き合う姿勢が大切。そのために不可欠なのが技術、知識、経験、そして環境。四つのうちどれが欠けても高いレベルの医療を提供することが難しくなります。幸い当院は大学病院としての恵まれた環境、各科の垣根を越えたフレキシブルな風土が根付いています。次世代の若い医師に高い技術と諦めない心を伝えるのが私の務めだと思っています」。

膝や股関節の人工関節置換術。高齢者でも安心できる施術を。

難波良文教授は、人工関節置換術「膝や股関節の最小侵襲手術」のエキスパート。豊富なキャリアと高度な技術で、毎年約四五〇例もの手術を手がけている。

「膝の痛みの主な原因は使い痛みです。超高齢社会の今、患者さんは増え続け、その八割が女性。実際、手術される方のほとんどが七五歳以上で、八〇歳の方も珍しくありません」。

変形性膝関節症や関節リウマチ、O脚などで変形した関節を、人工膝関節に入れ替えることで痛みをなくし、歩行能力を改善する人工関節置換術。手術時間は通常なら時間半程度で、ほとんどの患者は術後一週間二本杖歩行、二日後には杖なしで歩けるようになるそう。筋肉を痛めず、傷口も最小で済むため高齢者でも安心して施術できる。手術当日からリハビリ指導（土・日祝日も）を行なっており、約一か月で退院できるという。「肉体的、精神的、そして費用も含めすべての面で患者さんの負担を減らすのが当科の務め。私がしていることは、ある意味職人の仕事に似ています。日々工夫し、技術を向上させる。大切なのは日進月歩で進化する医療技術を常に貪欲に吸収する姿勢です。文字どおり、患者とともに歩く難波教授。その後ろ姿が頼もしかった。

お問合せ  
川崎医科大学附属病院  
0864621111  
http://www.kawasaki-u.ac.jp/hospital/



膝に関して言えば「正座ができるようにする」ことがひとつの目標。加えて両膝の同時手術も可能だ。「両膝同時だと、入院期間が短くなり、費用も軽減できます」とのこと。すべての面で「患者に寄り添う姿勢」が貫かれている。



4人の教授が率い、質の高いチーム医療を実現する整形外科。それだけにスタッフの意識、向上意欲も高い。「医療技術を駆使し、すべては患者さんのために」の思いを実践している。

高校時代から続けてきた柔道(二段)は最近小休止とのこと。プライベートの息抜きは愛犬の散歩と自転車。「自宅から病院までの片道40分を自転車で通勤しています。毎日とはいきませんが健康維持によいですね。本人曰く、「家庭菜園でもっとばら取種係です(笑)」。人懐っこい笑顔が弾けた。

Report!

# 患者さんの負担を減らすのが務め

by 川崎医科大学附属病院

**難波 良文 教授**  
Yoshifumi Namba  
■認定医・専門医・指導医  
日本整形外科学会認定整形外科専門医、日本リハビリテーション医学会専門医、日本リウマチ学会専門医、リウマチ財団登録医  
■専門分野  
下肢の人工関節(特に股関節、膝関節の最小侵襲手術)

